

「グローバルの中の日本」

NPO法人「ガイア・イニシアティブ」代表

野中ともよさん



東京生まれの東京育ち。上智大学・同大学院卒 / フォトジャーナリスト専攻、米国留学。NHKやテレビ東京の番組キャスターでご活躍後、さまざまな企業のアドバイザーや取締役、大手電機メーカーの会長に就任、各省庁の審議会では歯に衣着せぬ発言…。今、ハワイ・沖縄を飛び回り、信念を持ってエネルギーに活動を続ける野中ともよさんに、これからの生き方についてお聞きしました。

聞き手・構成編集 / 荒井 浩

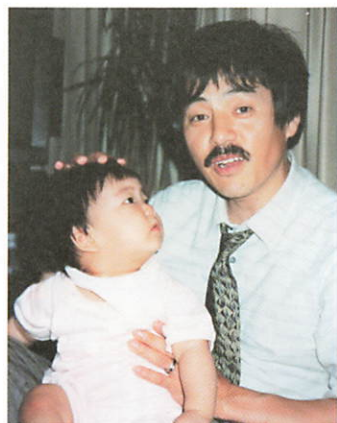
稲本代表・オークヴィレッジとの出会い

稲本さんとのご縁は、私の人生の中で大切な縁として神様に感謝しているうちのひとつ。私は、人生で一番大事なものは「出会い」だと思っています。その人に出会うことができたかどうか、人生を決めているといっても過言ではありません(笑)。

そもそもは、1986年に稲本さんを主人公にしたNHKのドラマ「緑の生活」がありましたが、私の兄がそのディレクターでした。その時の話は兄から聞いていましたが、私が直にお目に掛かってお話を聞き、意気投合したのは、北海道にある倉本聰さんの「富良野塾」でした。

1989年、NHKのBS放送が開局する夏休みに、富良野塾からの生中継で大規模な特別番組を放送したのですが、お元気だった頃の逸見政孝さんと私がメインキャスターを務めました。稲本さんをはじめ、作家の安部譲二さん、宇崎竜童さん、阿木燿子さん、林英哲さん、日比野克彦さん等々、あらゆる分野から、さまざまな方を森にお招きして、最先端放送技術と人類の来し方行く末をテーマに富良野塾から倉本さんと一緒に発信するのが狙いでした。

その時、おなかに娘を宿していた私は、新しい命ができるなら、やはり自然との接点を持ちたいと稲本さんにご相談。持っていた八ヶ岳の土地に、稲本さんにお世



お嬢様の幼少期、代表・稲本に抱かれて

話になり、家を建てることになったのです。その後も、『私たち地球人』という本を出版するにあたって、稲本さんにご登場いただきましたが、私にアインシュタインを教えてくれ、「原発では地球は救えない、森に入り森と語り、森に生かされた人類の営みから未来を志向していく」という考えにも多いに共感して今に至っています。

八ヶ岳の家の設計/施工の傍ら、今よく売れているオークヴィレッジの「寄木の積木」のプロトタイプを頂戴しました。どの樹種の積木をよく手にするか? かじるのはヒノキ? スギ? …と幼い娘がモニタ―に(笑)。あまり男の方の膝に乗ったりはしませんでした、この頃の主人と同様に稲本さんにも当時はお髭があつたので、彼女にとってお気に入りのおじさまの一人だったようです。懐かしいですね。

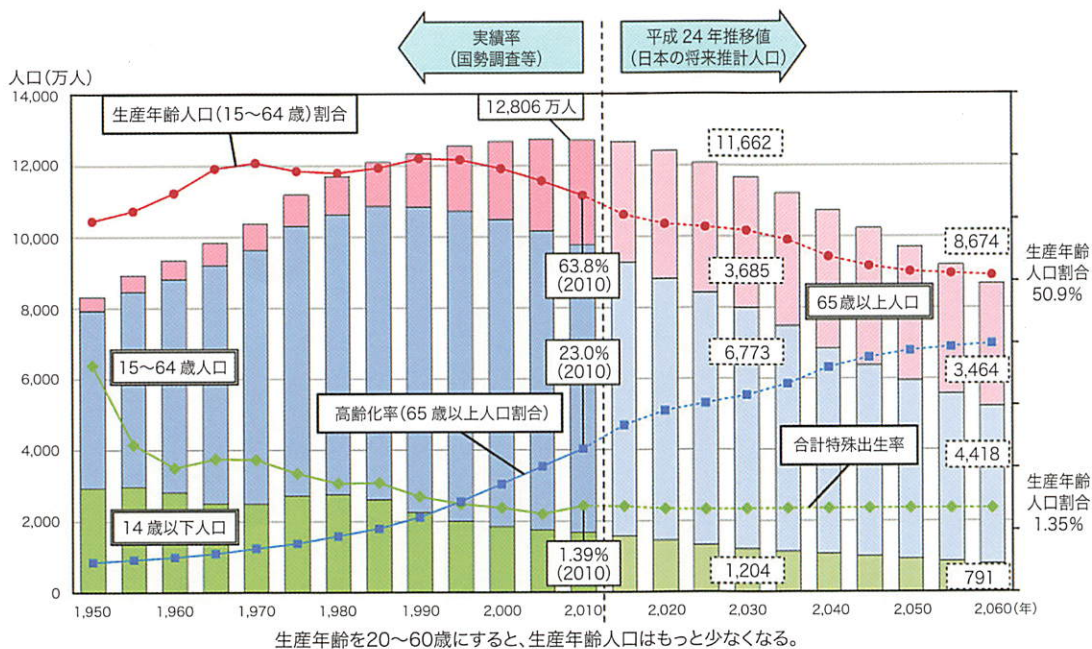
高度成長期

成功体験からの意識と価値の変革

稲本さんと出会って30年近く経ちましたが、いよいよこれからがオークヴィレ

日本の人口推移

【出典】 総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計):出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)、厚生労働省「人口動態統計」



ジの時代だと思っています。一般的に、成功体験がある人がデジコンメーカーになると、自分たちが成功したという自負やプライドがあるので、どうしてもそのメガネでしか今の世の中を見られなくなりますが、ちよつと懸念す

るのは、オークヴィレッジで社歴が長い方たちも、モノ造り集団として会社を創り上げて支えてきたのは俺たちなんだという自負がありになる。オークヴィレッジが成功した時期は、高度成長期で日本の社会も伸びていく時期。高価な職人技は普通の人には買えないけれど、支えてくれたお客様が多かった。

日本の高度経済成長をけん引してきたそうした団塊の世代は、今いくつになつていて

思いますか? 70年前に戦争が終わり、中国や南の島から帰国して結婚して生まれた子どもたちで、もう70

歳に手が届く人もいます。という事です。企業でいうと定年を過ぎて

います。団子の塊だから団塊と言いますが、日本の高度成長期を

ばく進しながら日本の戦後の社会システムを

つくつてきた。この世代の中には、黒塗りの車と秘書が付いて、役員や顧問、子会社の

監査役、あるいは天下りで高額退職金…。

ここ数年、日本ではこ

れといった新しい産業は生まれていませんね。例えばICT(情報通信技術)のソフトウェア分野に若者が進出してくるとモグラ叩きのようにして叩いて潰し、俺たちはモノづくりで日本を引っ張ってきたからと、製造業でこそ、鉄で、いや船で、繊維で、自動車で、いやいや電気製品で、その分野で牛耳つてきた成功体験のメガネでしか社会を見たくない。ネットのソサエティで何が起きているかは理解しない方たちもまだゾロゾロいます。

新しい流れ

2007年にガイア・イニシアティブ

を立ち上げて活動していますが、その前からインドのパチャウリさんは存じ上げて

いました。パチャウリさんが提唱した、インドの無電化村の子ども達に太陽から充電できるソーラーランタンを広める運動

に、私たちが日本からお届けするプロジエクトを展開しています。

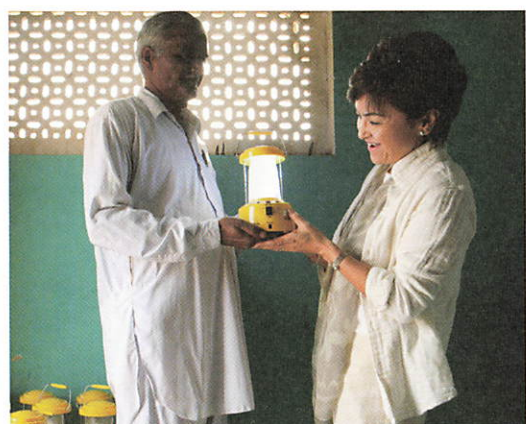
日本の電気メーカーの製品を持つていくのではなく、現地でモノづくりのインダストリーを育てることに意味があります。

この無電化村民が全員ケータイを持つています。想像できますか(笑)。

マイクロファイナンスの融資を受ける学校にも行けない村人たちが、ファイナンス

の決済をケータイで行っているのです。アンテナを立ててネットを引き、決済に必要な端末を村に一台置けば、中央とその

村はつながる訳です。



インド / ソーラーランタンの充電ステーションにて

今、世の中のあたり前のことがガラガラと音を立てて崩れて、新しいリーダーたちが出てきています。若い人たちは新しい情報通信をどう使つてビジネスを構築していくかという時代に、鉄だ、車だ、家電だと言つて固執する経営者がいたら未来は暗いでしょう。例えばシリコンバレーの若者たちは一番大事にすることはお金じゃなくて自分のやりがい。お金も大事ですが、大切なのは、やりがい。ありがとうと言つてもらえること。かのスティーブ・ジョブズは成功して巨万の富を得ましたが、たった二つ買えなかったものがある。それは、彼の命です。それに若い人たちは気づいています。ひたすら働き蜂で給与やボーナスのことしか考えず、命がけで満員電車で通勤し、係長から課長になるのが夢。そんな働き方がどれだけ愚かしいことか、若い人たちはとくに



インド/支援先の村の子ども達とのひととき

分っています。ありがとうと言ってもらえるような好きなことをやる自分。それは勝手に生きているのではなく、人間というの、生かされている存在でしかないということに気づくということなのです。

「オークヴィレッジ」と「シンクガイア」

では、生きるためには何が必要でしょう？ 食べ物ですね。それから水、そして空気。それからお日様＝エネルギー。太陽があるから風が吹き、風があるから空気が循環します。そして何より空気の中の酸素がないと私たちは生きられません。二酸化炭素を吸って酸素を供給してくれるのが森、葉っぱ、植物の光合成です。これが炭水化物などの食べ物を供給してくれています。だから私たちは生きていくのではなく、生かされている存在でしかないのです。

人が森とどう付き合うか、森に対する作法・所作をオークヴィレッジはソフトウエアとして、そこそ山盛り持っている。裸で生まれて裸で死んでいく人類が何に支えられ、どこへ帰ればいいのか、全ての答えは森との付き合いの中にあります。

たぶん稲本さんも同じ単語を使うと思いますけど、モノを造って何ではない。生き方としての哲学とストーリー、優しい言葉で言えば、何のために生きて、何のために私たちは生まれてきたのか、どこへ向かって生きて行くのかを考えるべき時代に突入しているんですね。ようやく

ですが。その人その人が自分の頭と心と魂で考えて行くプロセスこそが、私は人生だと。全ての人にアルゴリズム(解)があつていい。ヒントは森にある。オークヴィレッジで働いている人たちは、ラボ(研究所)の知識ではなくて、より深いところで培われてきた知恵とストーリーを語る力とそれを読み取る力がある方たちです。

お金の目盛りで社会は幸せになれません。では何か。それは命の目盛りです。よ。戦争している暇はないのです。ありがとうと言ひ合える関係を家族の中で。国や地域の中で。地球規模の中でつくるか。自分というものを同心円にした時に全てが一緒の話なのです。核を持つ国が強くて、資金の多い企業が強いと思ってきた20世紀はもう終わりました。

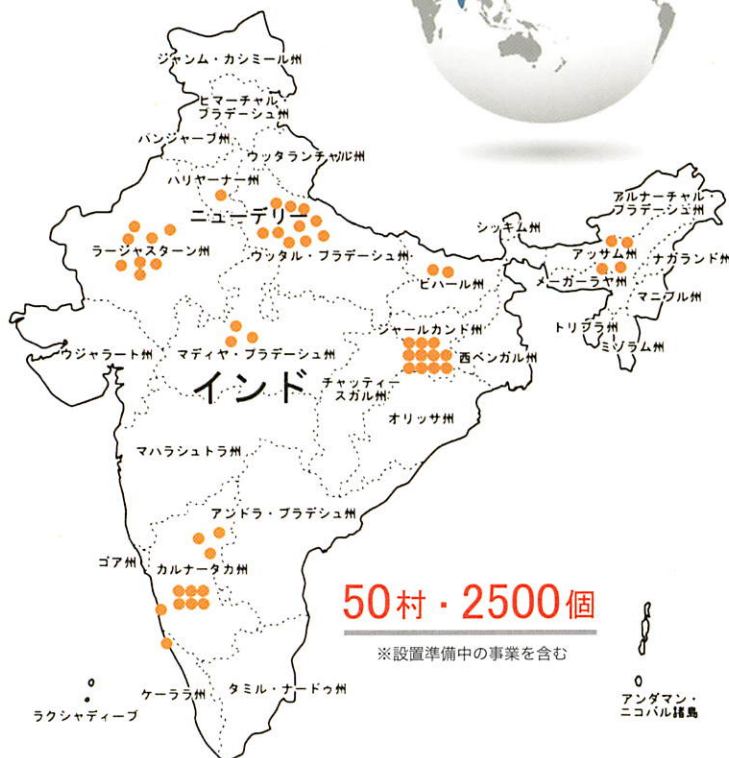
◀ 今までのままで良しとする社会が続くと、生まれてくる子供たちはとても不幸だと思えます。だから変えなければいけないというのが、ガイア・イニシアティブをつくったモチベーションであり、ひとりでも多くの子ども達が笑顔でいられる地球づくり、そのことに對して私に何ができるかを考え実践することが、生きていくひとつのベクトルなのです。

あの頃は、良いモノをより安く多く売つてもうけるというビジョンだった電気メーカーで、「子ども達により良い未来を返していこう、シンクガイア/地球を考える」という方向で進もう」と言ったとたん、

インドソーラーランタンプロジェクト支援状況

(2015年5月現在)

- 法人サポーター 47 村
□ 個人サポーター 3 村



私はマスコミに叩かれましたね。儲けて何ぼのビジネスにそんなきれいなことを言っている場合ではないだろうと。

でも、例えば、世界にはいろいろな宗教があり、左手を不浄とする宗教の人たちもいる、その人におにぎりは売れない。つまり違いがあつて当たり前前提に立つ。すると、誰でも全員がありがたいねと思うモノをつくるのが、グローバル戦略になる。海外の売上が多いなら、世界中の地球人に共通で一番大事にする価値、これにヒットする商品をつくれれば良い。健康になったとか、助かったとか、いのちが喜ぶ商品をつくる。シンクガイアの発

想です。ナイーブだと批判されましたが、一番貪欲なグローバル戦略(笑)。お金は大事。でも、「いのち」を支えてくれる、水や空気や食べ物、つまり地球環境そのものが、今や危機に瀕しているのです。技術者の多くは新しいモノを生み出すことに生きがいを感じます。しかし、それは「シンクガイア」の考えに基づいた開発であつてほしいと思います。

ハワイ・沖縄・飛騨から

ここ数年は、ハワイと沖縄を行ったり来たり。ハワイでは大学での研究員。沖



沖縄/久米島町民を対象にした講演会

縄では久米島の総合計画プロジェクト、10年先に向かってどういう島になっていくのかという策定のお手伝いをしています。その間に、若者たちとのガイア・イニシアティブの仕事などで東京に寄ります。

グローバルと聞くと国際人みたいなイメージを持つ方がいらつしやるかもしれませんが、そんなことは全くありません。グローバルというのは、いわば地球人であることに自覚を持つて感謝する生き方。その上で、ネットが使えれば、世界中のマーケットと直接つながるので無駄がなくなります。興味がある人が必要な情報をクリックしてくれるでしょ。だから届いた人がどこにいるかを見つけて、どのチャネルでどうやってそこに行き着くかが重要になってくると思います。今のオークヴィレッジは、世界中の人に向けた情報発信こそが重要です。森と人の関係を熟知しているオークヴィレッジは、本当にこれからの会社だと思います。森のアロマ



沖縄/久米島の風景

もしかり。自分たちにしかできないことを「命の目盛り」に照準を合わせて、新しいパラダイムをつくっていく方向に向かっていく。期待しています。

(※1) NPO 法人ガイア・イニシアティブ
すべての社会生活に、地球上のあらゆる存在を包含する G A I A の視点で、個人や企業に対して、さまざまな啓蒙活動や支援活動を行うために、野中ともよさんを代表理事として2007年に設立された非営利団体。稲本正は評議員メンバーのひとり。

(※2) ラジエンダ・パチャウリ氏
インド出身の環境エネルギー問題の専門家。国連の IPCC (気候変動に関する政府間パネル) 議長を13年務めた。2002年より IPCC の3代目の議長となり、2007年には IPCC がノーベル平和賞を受賞した。

(※3) マイクロファイナンス(小規模金融)
貧しい人々に小口の融資や貯蓄などのサービスを提供し、彼らが零細事業の運営に役立て、自立し、貧困から脱出することを目指す金融サービス。バンク・ラッシュにあるグラミン銀行の創設者ムハマド・ユヌス氏(ノーベル平和賞受賞)がマイクロクレジットの創始者。